

東北大学病院「熊本地震対応報告会」で熊本地震での DMAT 活動について報告しました (2016/6/23)

テーマ：熊本地震、DMAT、東北大学病院

場所：東北大学医学部臨床大講堂（宮城県仙台市青葉区）

2016年6月23日(木)、仙台市青葉区の東北大学医学部臨床大講堂において、東北大学病院第3回災害対策会議「熊本地震対応報告会」があり、佐々木宏之助教（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が熊本地震におけるDMAT（災害派遣医療チーム）活動について報告しました。東北大学病院災害対策会議には、病院長を含む各科科長（教授）や医局長が参加し、発災後の病院方針・対応を決定し実行する中核的会議です。熊本地震の発災直後からすでに2回開催され、病院としての支援活動が一段落したことより、各方面の活動報告を行う第3回会議が開催されました。

佐々木助教は、4月16-19日の活動期間中に東北大学病院DMATが関与した熊本県南阿蘇村での特別養護老人ホーム入所者搬送ミッションについて報告しました。現在のDMAT活動の主眼は、いわゆる「瓦礫の下の医療」よりも被災地医療体制の下支え・再構築、救護所での活動等に重きが置かれており、それ以外にも今回のような転院・搬送案件など、従来のDMATのイメージとはかけ離れた幅広い活動に、参加者は熱心に聞き入っていました。

他にも日本産婦人科学会派遣、災害派遣精神医療チーム(DPAT)派遣、厚労省・結核感染症課派遣、日本病院薬剤師会派遣、日本集団災害医学会派遣、アジア医師連絡協議会(AMDA)派遣、歯科派遣など、大学病院ならではの、多岐に渡る活動報告を拝聴することができました。(東北大学病院HPにも掲載：<http://www.hosp.tohoku.ac.jp/release/news/7018.html>)



写真

左上：開会の挨拶をする八重樫病院長、
右上：報告する佐々木助教、
下：会場の様子

文責：佐々木宏之（災害医学研究部門）